

中学生の部

八幡南 初制覇



強さの理由「走攻守」

八幡南	0100152	9110
松原	0001000	142

八幡南	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
八幡南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
松原	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



第40回九州大会

(11月3、4日・諫早第1野球場ほか)

中学生の部は九州ブロック9支部の予選を勝ち抜いた16チームが参加し、八幡南ボーイズ(北九州支部)が栄冠をつかんだ。決勝で大分明野ボーイズ(大分県支部)を打破。初めて秋の九州チャンピオンに輝いた。また小学生の部は3チームの総当たりで争われ、2勝した黄城・諫早合同ボーイズ(西九州支部)が優勝した。【10面に関連記事】

◇中学生の部【決勝】
八幡南ボーイズ

010	015	02
000	100	019

大分明野ボーイズ

【八】春田、吉永、花元、井土【大】葛城、松木、三浦、神矢、東
【西原】春田(八) 栗林、吉原(八)

公式戦4大会 驚異優勝3回

投打に安定した力で制した八幡南ナインが、秋空へ人さし指を高く掲げた。全4試合で計40得点7失点。他チームを圧倒して九州ブロック中学生の部、96チームの頂点に立った。

新チームはこれで公式戦4大会で優勝3回、通算17勝1敗。強さの理由は、総合力の高さだ。特に「投手層の厚さ」「切れ目のない打線」「ベンチの盛り上がり」が際立つ。決勝でも、それらが存分に発揮された。先発・春田君が5奪三



振で4回1失点。2番手の吉永君は2回2/3で6奪三振をマークした。7回2死で登板した花元君も、三振締め。3人で12三振を奪い、最少失点に抑えた。今大会では準決勝を4回1失点で完投した原田君のほか、吉原君、佐野君と計6人が登板。春田君は「後ろにいい投手がいるので、しっかりと腕を振ることができました」と仲間への信頼感を明かした。

打線はムラがなく、いざれも2安打の吉永君と吉原君を始め、先発出場のうち7人が安打を記録。途中出場を含めると、1番から9番までの全打順で「H」ランプをともした。5回は9番・平林君が四球を選び、吉永君

の犠飛で勝ち越し。6回には3本の単打に4四死球を絡めて5得点と、長打なしでビッグイニングをつくった。

試合中はベンチから控え選手も盛んに声を出して、仲間を鼓舞した。チームに一体感があり、ムードメーカーの花元君は「みんながポジティブになれるように言葉をかけています」と笑った。過去10年で春は7度、夏は6度の全国切符奪取を誇る、北九州支部きつての強豪。初めて手にした「秋の九州王者」の称号は、さらなる飛躍を期待させる。徳野監督は「バントなど細かいプレーに課題があるので、チーム内の競争で精度を上げていきます」と視線を上げた。

秋の九州大会を初優勝した八幡南ナイン【下】味方の攻撃に声援を送る八幡南ナイン【切り込み写真】決勝の5回に決勝犠飛を放った吉永君

八幡南ボーイズ

0612	04	213
0110	04	213

飯塚ボーイズ

【八】吉永、井土
【飯】金城、古川、田中、仲一、早川、中原、大山(八)、中嶋(飯)
【井土、松永(八)、早川、徳重、吉賀(飯)

【準決勝】

八幡南ボーイズ

0040	0012	00
0300	0002	0037

熊本中央ボーイズ
【八】春田、吉原、佐野、井土
【熊】堀川、野中、片山
【井土(八)】大塚、福山(熊)
【井土(八)】

【準決勝】

二日市ボーイズ

0000	001	111
5201	3X1	111

八幡南ボーイズ

(4回コールド)
【二】稲留、山崎、安部、寛永
【八】原田、井土
【中原、平林(八)】高橋(二)